

登山 月報

JMSCA 登山月報 第668号 令和6年11月15日発行



「小鳥ヶ池と戸隠連峰」撮影者：長野県山岳協会 伊久間幸広（飯田山岳会員）

8月11日 みんなで山を考えよう！
 祝「山の目」
 全国「山の目」協議会
 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

No.668

第60回全日本登山大会新潟大会報告	2
第78回SAGA2024国民スポーツ大会報告	4
第4回ボルダーフューチャーカップ鉾田	6
令和6年度安全登山指導者研修会「東部地区」	7
SKIMO 9月湯の丸合宿報告	8
寄贈図書	9
Enjoy Climbing	10
長野県山岳協会自然保護委員会のSDGsな活動	11
JMSCA、表紙のことば	12

第60回全日本登山大会新潟大会報告



参加者全員での集合写真

第60回全日本登山大会新潟大会を日本100名山の谷川岳、苗場山を擁する新潟県南魚沼郡湯沢町で開催させて頂きました。

北は北海道から南は沖縄県まで、多くの方々に参加頂き賑やかに交流を深める大会となりました。

令和6年9月21日(土)から23日(月)の日程で開催しましたが、登山を予定していた22日(日)は生憎の雨天。各登山コースの変更を余儀なくされたことは本当に残念でしたが、事故、怪我無く無事に大会を終えることが出来ました。

【会場】 ナスパ ニューオータニ

【後援】 環境省・スポーツ庁・新潟県・湯沢町・公益財団法人新潟県スポーツ協会

【登山報告】

Aコース 苗場山(コース変更三国峠)

苗場山を目指す予定であったが、大会初日21日に出された天気予報等の情報で、秋雨前線、低気圧の影響



で22日の苗場山山頂付近の気象条件は極めて悪いと予想し、苗場山登山は中止と決定した。

このため、三国峠への登山に変更し、22日、登山口の三国トンネルの新潟県側入口に当日参加者も含めた登山者52名とスタッフ12名が集合。

小雨の降る中、3班に分かれて順次出発した。

トンネル脇の登山道の取り付きは、少し勾配がきつく道も悪いが、旧街道の本道に入ると古くから歩かれていただけに広く歩きやすくなる。

雨脚は時折強くなるが、歩行に差し支えるようなこともなく、自然林の巨木に守られて、霧に包まれた道を峠へと歩を進めた。そして、小一時間ほどで目指す三国峠に到着。

峠には権現様(御坂三社神社)を祀ったお社が建ち、三社権現縁起によると、坂上田村麻呂が東征の折、上州赤城神社、信州諏訪大社、越後弥彦神社の三社を勧請したと伝わり、三国の神が祀られているため三国峠と言われている。

そんな歴史に触れながら、小雨降る山頂を後にして往路と同じ道を下った。

Bコース 平標山(たいらっぴょうやま)

平標山参加者は26名。バスで出発して10分程経過し二居トンネルを抜け出た時、淡い希望もはかなく、車窓からの景色は小雨とガスが覆っていました。

山頂は雨混じりの強風が予想されるため、今日の行動目標は樹林帯を抜けた『平標山の家』・山小屋までとリーダーから変更の指示が出ました。



登山口へは約80分の林道歩きです。それぞれの所属団体や会場・湯沢町の印象、交通手段、昨日の開会式典の話題。スタッフへは地元・新潟の山への質問など、お互いの情報交換を交えながら雨の中を歩いて行きます。

雨は本降りの激しさを増してきました。途中、山の家小屋泊まりから下山するパーティとすれ違ったりしました。そのような時、リーダーから此処で中止の号令がかかりました。

山に降る大粒の雨、登山道に流れる雨水の中、各員、細心の注意を払いながらユックリと降ることになりました。

Cコース 三国山・三国峠

「偉人たちの足跡をたどる歴史道に参加して」

Cコース総勢31名は、バス車内で雨支度をし、三国トンネル脇の登山口(1,100m)に着くと、慌ただしく外へ飛び出し出発の合図を待った。

チーフリーダーをトップに3班体制で橋を渡って登山道に入った。取り付きは少し急だがすぐに広々とした登山道がゆるやかに続く、土砂が洗われ岩っぽい坂道をジグザグに進み「三国権現神水」で休憩し、間もなく峠だろうと思っていたところに苗場山からコース変更となったAコースのメンバーが下ってきた。

私たちは入れ替わるように三国峠へ午前9時前に到着した。峠には立派な鳥居と三国権現を祀った避難小



屋があった。集合写真を撮り終えるころには一段と雨脚が強まり、追われるように下山を開始し30分ほどで登山口に戻った。

Dコース 湯沢高原トレッキング

山行当日は雨の予報だったが、朝起きると曇ってはいるものの雨が降った形跡もなく一安心したが、次第に風が強くなってきた。

湯沢高原へのロープウェイは風にあおられ減速運転となり、機体が左右に揺れて風の強さを実感した。

山頂駅を出ると雨も降り出しており、風も一層強くなり、参加者の雨具の濡れ具合や年齢を考慮の上、山行中止として本部に連絡する。

緊急避難場所となっているリフト駅で小休止後ロープウェイ山頂駅に戻り、最後の記念撮影を行い、駅内で暖まりながら下り便の発車を待った。

登山4コースの中で一番容易なコースではあるが、天候、参加者の年齢、体調、体力などで想定外のリスクが発生し、色々な判断が必要になることを感じさせられた。



【最後に】

本大会は、登山実施日が天候に恵まれませんでした。交歓会では全国からおいで下さった皆様との交流を深めることが出来ました。

その点で成功と言えるのではないのでしょうか。

今回の大会開催にあたり、新潟県山岳協会では綿密な事前準備を行い大会開催に臨んだところですが、至らぬ点も有ったかと思えます。

同じ山を愛する仲間として、ご容赦のほどお願い申し上げます。

次回の兵庫大会が盛会となることを祈念し、新潟大会の報告とさせていただきます。

参加者の皆様、そして関係者の皆様、本当に有り難うございました。

(新潟県山岳協会 副理事長 大場 勲)

第78回SAGA2024国民スポーツ大会報告

＝新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを＝

本年1月1日の能登半島での地震後、再び、豪雨災害が襲いました。犠牲になられた皆さまや今もお苦難の中にいる皆さまに、改めて心より哀悼の御霊をささげ、スポーツの持つ力、「勇気」「希望」「感動」をお伝えできる大会を、私たちは目指しました。

「国民体育大会」が「国民スポーツ大会」へと改称された最初の大会、「第78回SAGA2024国民スポーツ大会スポーツクライミング競技会」が、佐賀県多久市九州クライミングベースSAGA（県立多久高等学校）において、10月12日（土）～10月14日（月）の3日間、好天に恵まれ熱戦が繰り広げられました。

3日目成年女子ボルダー競技決勝において、秋篠宮佳子内親王殿下のご臨席を賜り、選手へのパフォーマンスに会場の観客とともに、拍手などで讃えられ、会場は大いに盛り上がりました。

「一度、やってみたい」「選手2人の支えあった競技、素晴らしいですね」とのお言葉をいただきました。



本大会は、大会名称の改称とともに、多くの方の観戦機会の提供（ナイトゲームの実施）や、競技ルールの変更などが取り入れられた大会でした。

競技会初日には、少年男子リード決勝が午後6時30分からの競技開始となり、地元佐賀県チームが優勝し幸先良いスタートとなりました。そのリード予選では「一人2ルート」を登るIFルール準拠化が実現いたしました。さらには、競技期間の3日間での結果が求められることから、「リード競技4ルート化」も実現いたしました。

これらの競技施設、ルール準拠は、会場地実行委員会、佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟の10余年にわたる競技運営準備からの賜物と感じています。ありがとうございます。

4種別各25チームでの熱戦！ジェンダー平等化！

今年からは、本大会出場チーム総数はそのまま、4種別の各出場チーム数を25チームとするジェンダー平等化の実現を図る、競技形式となりました。

競技は、本大会前に開催されたユース世界選手権大

	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子
不参加チーム数	1	5	1	1



満席のナイトゲーム

会（中国・貴陽）で入賞された選手も多く参加するなど、レベルの高い競技会となりました。

その一方で、残念ながらブロック大会で、昨年までフルエントリーの「成年男子」を含む8チームの不参加があり2県において、「2チーム不参加」がありました。

今後、3種別はブロック大会の予選を経て本大会に出場します。また、1種別はストレートに出場できるため、不参加県（チーム）には猛省を求めます。県レベルでの責任ではなく、JMSCAへの責任（競技者育成）となってきます。ご注意ください。

今年も、中学生の活躍がありました。少年男子で、9校9名、少年女子で11校14名の参加がありました。

少年男子リード競技で、1名、少年女子リード競技で4名、ボルダー競技で3名が決勝に進みました。

中学生のみのチームは、少年女子で3チームありました。そのなかで、東京都チームは2種目で優勝しました。おめでとうございます。

完登者は、リード競技で少年女子、武石初音選手（埼玉県）、少年男子通谷律選手（佐賀県）が、予選・決勝ともに完登しました。おめでとうございます。

競技最後となった成年男子リードでは、地元・佐賀県の底力を発揮し、会場は大いに盛り上がりました。優勝、おめでとうございます。

成年女子ボルダーでは、倉奈々子（愛知県）選手が素晴らしいパフォーマンスで4課題一撃を達成されました。おめでとうございます。

本大会から始まった、いわゆる「4種別25チーム制」は、4種別ともに、「ストレート出場チーム」と「ブロック大会選出チーム」では、決勝進出率に大きな差異は認められませんでした。

競技会前の質問は、3チームよりあり、中には、実施要領を十分に読み込まず、質問に至った内容もありました。監督、関係者は、しっかりと実施要領等について読

■少年男子リード競技決勝

順位	チーム	種目	氏名	成績	個人順位
1	佐賀県	A	通谷 結太	34+	5
		B	通谷 律	TOP	1
2	栃木県	A	寺川 陽	37+	2
		B	船木 陽	44+	2
3	高知県	A	和田 樹怜	39+	1
		B	角 泰知	16+	8
4	兵庫県	A	藏敷 慎人	37+	2
		B	隅谷 樂	37+	6
5	神奈川県	A	角田 暁	31+	8
		B	濱田 琉誠	44+	2
6	鳥取県	A	藤田 楓	36+	4
		B	山根 柁真	39	5
7	東京都	A	上原 一剣	32	7
		B	笹原 蓉翠	39+	4
8	奈良県	A	田淵 幹規	32+	6
		B	★原田 宙	37+	6

■少年男子ボルダ―競技決勝

順位	チーム	氏名	個人成績	個人順位
1	神奈川県	角田 暁	2T2z33	9
		濱田 琉誠	4T4z88	2
2	佐賀県	通谷 律	4T4z88	1
		通谷 結太	2T2z44	10
3	三重県	杉本 侑賢	4T4z1211	3
		小山 楚誠	2T4z266	11
4	岩手県	本明 佳	3T3z66	5
		平瀬 太誠	2T2z66	13
5	東京都	上原 一剣	2T3z69	8
		笹原 蓉翠	2T3z27	7
6	奈良県	田淵 幹規	3T3z54	4
		★原田 宙	1T1z22	15
7	高知県	和田 樹怜	3T3z99	6
		角 泰知	1T1z31	16
8	岐阜県	林 晃佑	2T2z66	12
		前田 唯月	1T1z11	14

■成年男子リード競技決勝

順位	チーム	種目	氏名	成績	個人順位
1	佐賀県	A	樋口 純裕	39	1
		B	中上 太斗	40+	2
2	新潟県	A	渡辺 颯海	24+	8
		B	田中 修太	42+	1
3	奈良県	A	西田 秀聖	36+	2
		B	坂井 亮瑛	31+	4
4	埼玉県	A	猪鼻 碧	36+	2
		B	鶴 隼人	29+	5
5	愛媛県	A	清水 裕登	36+	2
		B	大政 涼	28+	6
6	鹿児島県	A	川畑イサム	26+	7
		B	土肥 圭太	38	3
7	東京都	A	上原 玄武	35+	5
		B	上村 悠樹	19+	8
8	大阪府	A	山口 賢人	29+	6
		B	三根生慶太	27+	7

■成年男子ボルダ―競技決勝

順位	チーム	氏名	個人成績	個人順位
1	栃木県	川又 玲瑛	4T4z66	1
		齋藤 正樹	2T4z610	9
2	三重県	渡部 佳太	3T4z58	4
		田嶋 瑞貴	3T3z55	7
3	愛媛県	清水 裕登	2T4z510	8
		大政 涼	3T4z44	3
4	鹿児島県	土肥 圭太	4T4z74	2
		川畑イサム	1T3z45	15
5	奈良県	西田 秀聖	2T3z56	11
		坂井 亮瑛	3T3z44	5
6	大阪府	三根生慶太	2T2z55	12
		山口 賢人	3T3z55	6
7	東京都	上村 悠樹	2T2z77	13
		上原 玄武	1T3z28	14
8	佐賀県	樋口 純裕	2T3z34	10
		中上 太斗	0T2z02	16

■少年女子リード競技決勝

順位	チーム	種目	氏名	成績	個人順位
1	東京都	A	★山崎 彩葉	36+	3
		B	★松浦 朱希	40+	1
2	埼玉県	A	武石 初音	TOP	1
		B	金子 千優	31+	8
3	佐賀県	A	★久我 心結	36+	3
		B	梶 絢香	38+	2
4	静岡県	A	永嶋美智華	42+	2
		B	狩野 凪	35+	5
5	長野県	A	山田 泉都	36+	6
		B	徳嵩 悠乃	38+	2
6	大阪府	A	金木 そら	36+	3
		B	横道 花凜	36+	5
7	奈良県	A	坂井 朱希	35	6
		B	藤村 侃奈	37+	4
8	徳島県	A	★西川 美愛	33	8
		B	増田 心瑚	36+	5

■少年女子ボルダ―競技決勝

順位	チーム	氏名	個人成績	個人順位
1	東京都	★松浦 朱希	3T4z55	1
		★山崎 彩葉	3T3z54	4
2	埼玉県	武石 初音	2T3z44	6
		金子 千優	3T3z43	2
3	静岡県	永嶋美智華	3T3z53	3
		狩野 凪	2T3z36	5
4	千葉県	萩原 香月	2T3z56	8
		村杉 汐里	2T3z57	9
5	長野県	山田 泉都	1T3z15	12
		徳嵩 悠乃	2T3z910	11
6	奈良県	藤村 侃奈	1T3z811	13
		坂井 朱希	2T3z56	7
7	徳島県	増田 心瑚	3T3z76	10
		★西川 美愛	1T2z32	14
8	鳥取県	北川ひかり	1T2z56	15
		福光 蒼里	1T1z21	16

★ = 中学生

■成年女子リード競技決勝

順位	チーム	種目	氏名	成績	個人順位
1	東京都	A	青柳 未愛	37+	3
		B	柿崎 未羽	45+	1
2	大阪府	A	中川 瑠	42+	1
		B	小田 穂香	36+	5
3	千葉県	A	二宮 凜	37+	3
		B	竹内 亜衣	41+	2
4	三重県	A	小林 舞	42+	1
		B	柏 綾音	29+	8
5	滋賀県	A	張替 夢乃	37+	3
		B	石井 未来	37	4
6	山口県	A	吉田 清華	28+	8
		B	大田 璃姿	41+	2
7	佐賀県	A	樋口 結花	35+	6
		B	大河内芹香	34+	6
8	神奈川県	A	伊東 そら	34+	7
		B	菅原 亜弥	32+	7

■成年女子ボルダ―競技決勝

順位	チーム	氏名	個人成績	個人順位
1	滋賀県	石井 未来	4T4z86	3
		張替 夢乃	3T3z44	7
2	神奈川県	伊東 そら	3T3z77	8
		菅原 亜弥	4T4z66	2
3	千葉県	二宮 凜	3T3z1717	10
		竹内 亜衣	4T4z119	5
4	東京都	青柳 未愛	4T4z88	4
		柿崎 未羽	2T2z55	13
5	福岡県	井上 葉水	3T3z99	9
		田嶋 瑞貴	2T3z311	11
6	愛知県	倉 奈々子	4T4z44	1
		有川紗 菜	0T1z012	16
7	山形県	工藤 空	2T3z47	12
		工藤 花	2T2z64	14
8	長野県	三森 里子	0T1z01	15
		中嶋 諒	3T3z33	6

■リード競技

	予選	少年男子	少年女子	成年男子	成年女子
鹿児島国体	決勝	13d	13c	13d	13c
SAGA国スポ	決勝	13d/14a	13b/13a. b	13d/13c. d	13b/13b

■ボルダ―競技

	予選	少年男子	少年女子	成年男子	成年女子
鹿児島国体	決勝	2級～初段	3級～初段	初段～2段	3級～1級
SAGA国スポ	決勝	1級～初段	1級～初段	2段～3段	3級～1級

み込むことを行ってください。

天皇杯／皇后杯 東京都！佐賀県 天皇杯2位！

東京都が、少年女子2種目優勝をはじめ、各種別／種目で競技得点を積み、天皇杯、皇后杯を獲得しました。皇后杯では、連覇を成し遂げました。

天皇杯順位		皇后杯順位	
順位	都道府県	順位	都道府県
1	東京都	1	東京都
2	佐賀県	2	千葉県
3	神奈川県	3	埼玉県
4	埼玉県	4	滋賀県
5	奈良県	5	静岡県
6	三重県	6	大阪府
7	千葉県	7	長野県
8	栃木県	8	神奈川県
			佐賀県

おめでとうございます。天皇杯、皇后杯順位は違ふものの、ほぼ昨年と同じ都県の入賞となりました。

他県の奮闘をご期待申し上げます。観客動員数は、3日間で一万五千人を超えました。

競技得点の獲得都道府県は、皇后杯は17都府県、天皇杯では、25都府県に及びました。

本大会に関係したすべての皆さまに感謝！

リード競技予選会場アイソレーションに、滋賀県、青森県、宮崎県（立入り許可）以外の後催県が入室しているのを、現認しました。当該人に、所属県名と後催県3県のみを入室許可であることを確認させ、直ちに、退出を指示いたしました。

理由の如何を問わず、監督経験者でもある者が、実施要領の記載事項に反する行為は、競技へのリスクトに反する恥ずかしい行為です。

本委員会として、本協会におけるガバナンス強化の徹底と、コンプライアンスの自覚を要望します。

最後になりましたが、本大会開催には、多久高等学校、佐賀工業高等学校、唐津東高等学校の競技補助員等の早朝からのご支援、ご協力を忘れてはなりません。蛭田伸一本協会長より、感謝状を贈呈いたしました。

国内屈指の競技施設を整備していただきました、佐賀県、大会運営を下支えされた多久市実行委員会、競技主管を担った佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟、九州地区山岳協会の皆様心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(国スポ委員会 西原斗司男)

第4回ボルダーフューチャーカップ鉾田



4回目となるフューチャーカップが9月14日、15日の2日間、茨城県鉾田市の鉾田市生涯学習館「とくしゅくの杜」スポーツクライミングセンターにて開催された。同施設内に今年度新設されたボルダーウォールも活用し、約250名の選手を迎え盛大に開催された。今年度よりボルダーとリードを別の大会として開催することとし、大会名もユースフューチャーカップからボルダーフューチャーカップに改めた。

[開催概要]

第4回ボルダーフューチャーカップ鉾田

期 日 女子 2024年9月14日(土)

男子 2024年9月15日(日)

会 場 鉾田市生涯学習館「とくしゅくの杜」
スポーツクライミングセンター

特設サイト

<https://www.jma-climbing.org/competition/2024/bfc/>

参加者数

	男子	女子
ユースC	67名	82名
ユースD	44名	46名
計	239名	

競技結果

女子	ユースC	1位	松浦 碧希	東京都山岳連盟
		2位	西 美柚奈	大阪府山岳連盟
	3位	塗木 りん	群馬県山岳・スポーツクライミング連盟	
ユースD	1位	濱松いちか	三重県山岳・スポーツクライミング連盟	
	2位	中村ちひろ	青森県山岳連盟	
	3位	橋本 暖	群馬県山岳・スポーツクライミング連盟	
男子	ユースC	1位	濱田 琉碧	神奈川県山岳連盟
		2位	長尾 一樹	山口県山岳・スポーツクライミング連盟
		3位	額賀 悠斗	茨城県山岳連盟
	ユースD	1位	遠藤 航至	無所属
2位		深澤 要	群馬県山岳・スポーツクライミング連盟	
3位		広島 寛太	茨城県山岳連盟	

概 況

競技は昨年に引き続き、ボルダーユース選手権などと同様の、制限時間内(カテゴリごとの参加者数に応じて異なる。70分～90分)の中で自由な順で課題に挑戦できる、通称コンテンツ方式にて実施した。

運 営

他のJMSCA主催大会と異なり、若年層を対象とした大会であることから大会要項にも「大会経験を積むと共に、競技者としての倫理・健康面の認識・知識の向上を図る」を目的と明記し、単に順位をつける、優勝者を決めるだけの大会にならないよう、常に頭の片隅に意識を



女子ユースC・優勝の松浦碧希選手 ©アフロ/JMSCA

しながら計画・運営を進めた。

昨年度に引き続き、競技後には親子研修を設定し、先輩アスリートやユース日本代表コーチから直接、競技への向き合い方に関する話を聞く機会を用意したほか、各日の競技終了後には競技の課題に再度挑戦できる時間を設けた。「大会の課題は一期一会であるからこそ競技の緊張感が生まれる」といった声もあったが、本大会の目的を考え参加者世代の成長に寄与するのではと期待を込めて試験的に実施することとなった。時間の都合上、一人あたりのトライ回数を制限しての実施となったが、それでも多くの選手自身が競技時間中に完登できなかった課題に再挑戦し、その課題の難しさを実感したり、時間を改めて落ち着いたことで完登を果たしたり、とそれぞれが新しい経験を得られたよう伺え、大会参加に対する満足度も高まったように見受けられた。

この大会が将来のトップアスリートを生むことだけでなく、スポーツクライミングを生涯にわたって取り組むスポーツとするための第一歩となることを祈っています。

最後に、大会開催にあたり尽力いただいたすべての関係者に、改めて深くお礼申し上げます。

(大会実行委員長 百瀬恭平)



選手受付の様子



大会オリジナルTシャツ



競技後の課題に再挑戦時間の様子

令和6年度 安全登山指導者研修会「東部地区」

令和6年9月27日(金)～29日(日)報告

富山県立山町国立登山研修所・大品山及び瀬戸倉山周辺で主管は富山県山岳連盟で開催されました。今回JMCSAからは吉田副会長と登山部長の私、野村が参加いたしました。

主催の国立登山研修所、お膝元での開催でしたが、地元、富山県、次回開催地の岐阜県、岩手県、福島県、石川県、福井県から参加者合計18名とスタッフ19名で皆さん非常に熱心に3日間研修に参加されたと感じています。

初日は基本テーマ「読図」でしたが名古屋工業大学名誉教授の北村憲彦氏が登山のプランニング、安全登山の実践、豊川山岳会 河合芳尚氏がコンパスの使い方、ナビゲーションの実践を講義され地図とコンパスの使い方を研修所付近の広場で三角ナビの実技も行われました。

夕食後は剣岳での遭難対策研修を終えて帰ってきたばかりの富山県警察山岳警備隊長の飛弾 晶夫隊長から山岳遭難の防止対策を実例と統計をもとにお話頂きました。実際の遭難者の映像ではヘリから見つけにくい服装、見つけやすい服装と行動を話され今後の登山で服装にも気を使うことを考え深く聴講されておりました。

二日目はナビゲーションの実際ということで付近の大品山・瀬戸倉山で普段の登山では中々、地形図とコンパスを活用することが少ない中、あいにくの小雨の中でしたが時折晴れ間もあり皆さん熱心に取り組まれておりました。

夜は情報交換会として皆さんが自己紹介され夜が更

けるのも忘れ、かなり盛り上がっていました。

三日目はまず私、野村がシュリングを使った簡易ハーネスを用いた危険な鎖場での通過とツェルトテントの有効活用の実技を行い、その後安全登山を目指してとの題材で研究討議がグループに分かれて討議され代表に発表頂きました。

最後に次回開催地の岐阜県の水谷嘉宏氏より来年開催の意気込みを語っていただき閉会となりました。

安全登山すなわち遭難を減らすためには指導者の研鑽と研修を受けた内容を持ち帰り仲間に普及することが何より大切かと思えます。

この研修会は毎年、東日本と西日本の各地で開催されておりますが是非前向きに取り組んで参加いただければと思います。

また開催地の富山県は私の故郷であり今回、偶然にも小学校の同級生が参加されており50年ぶりの再会に驚きと歓喜の思いでした。

最後に今回大変ご協力頂きました富山県山岳連盟の方々には大変お世話になり誠にありがとうございました。
(JMCSA 登山部長 野村善弥)



SKIMO

9月湯の丸合宿報告

2026 ミラノコルティナオリンピック出場を果たすには、今シーズンの結果がとても大事だ。春より積み上げてきたSKIMO日本チームの合宿も冬を前に最終段階に入ってきているが、9月後半から10月2日にかけて以下の日程でSKIMO日本チームとしての強化合宿を行なった。

9月24日～10月2日(オリンピック強化選手)

9月27日～10月2日(シニア強化選手)

9月27日～30日(ジュニア強化選手)

今季はシーズンが終わった6月の月山でのスキー合宿から、これで4回目の合宿となる。月山合宿では、スキーの動きで今後に必要なもの、続く白馬では夏のトレーニングで行うべきトレーニングを中心に行ってきた。

8月には冬に備え1750mの湯の丸高原で高所トレーニングを兼ねてトレーニングを行ない、9月も同じ湯の丸高原にて夏合宿を開催した。

特に今回はヘッドコーチであるPepがスペインから来日しており、W-cupチームのみならず、海外遠征にまだ行けていないシニア・ジュニア選手にとっても、良い刺激となることは言うまでもなく、シーズンに向けて全体でのチームワークの強化を図ることも目的となる。

まず先駆けて、東京にて9月25日に島・遠藤・田中・滝澤(空)・白井の5名が国立科学スポーツセンター(JISS)にて運動数値測定を行ない、26日は同トレーニングセンターにてトレーニングを行なった。

翌日より、Pepコーチとともに、27日～長野県湯の丸にある標高1750mをベースとするGMO湯の丸アスリートパークへ移動し、トレーニングを開始。



選手同士での確認(ポールトレーニング)



Pepコーチ意識の統一(ミーティング風景)

【参加選手】シニアとジュニア全日本強化指定選手(男女)

シニア：島・小寺・一橋・田中・滝澤(空)・白井・青木・林

ジュニア：滝澤(蓮)・笹川・山田・藤井・住谷・丸山・田邊

7名予定(Pep・松澤、平田、小田部、岸、堀部、角田)
湯の丸ヴァイレッジ別館

今年度、夏3回目の陸上合宿Pepコーチも来日し、チームとしての団結とシーズンINに向け動きのイメージをさらに高める。

主な内容は以下の通り(細かな専門用語の説明は省略する)

9月27日

12時から施設内にて昼食を取りながらミーティングを行った。

14:00～ 周辺にて各自ランニング30分程度(トレイル1.5km / 1.0kmコースを利用)

15:00～ ポールランニング動きの確認
(ゲレンデ利用150m程度ある中級斜面を20秒Z1～Z3～Z5×6～7本)

9月28日

AM インターバルトレーニング1200m×4本×2



Pepコーチと松澤コーチ



ポールトレーニング



SKIMO用具を身につけてトランジット練習

セット(2分間隔/セット間は5分)

PM SKIMOトランジットトレーニング

19:30 ~ 角田先生によるドーピング講習(基礎編)

9月29日

AM 自転車トレーニング Z2~Z3(妻恋愛妻の丘方面約30~40km 1000mD+)

PM 岸先生によるトレーニング(ジム)

19:30 ~ Pepコーチによるミーティング(トレーニング/レースに向けての考え方・取り組み方について)

9月30日 ※Pepコーチ帰国日

AM アップ40分(10分間いろんな動き→20分Slow running→90mランslow-middle-high)
ピラミッドスプリントダッシュ 10sec(2min) 15sec(2min) 20sec(3min) 30sec(3min) 20sec(2min) 15sec(2min) 10sec(5-8min) ×2

PM 岸先生によるトレーニング(ジムにてペアで行うストレッチ系を中心に)

10月1日

AM ローラースキー(鹿沢田代→東御市池の平湿原駐車場まで約12km)

PM SKIMOトランジットトレーニング(MIXED)

RELAY向け)

10月2日

AM 自転車トレーニング妻恋方面へ約50kmD+約1500(青木・林はトランジット練習)

昨シーズンは4月最後のイタリアコルチナでのワールドカップにおいてオリンピックに向けての直接のライバル国である中国にトップチームは勝つことができたが、総力としては中国の上に行くことはできていない。そもそもナショナルチームに属するアスリートの数が多い中で、前回2022年のスペインでの世界選手権ではチベット自治区出身のジュニア選手が金メダルをとっている。

以前にも書いたが、10年前から強化を初めているライバルに対していかに戦うかは、チーム内での協力によって力を高めるしかない。そのために合宿を行ってきた。選手個々にもチームもそれぞれができることを今まで確実にこなしている。オリンピックに向かう選手にとって、必要な体力と心構えが今の段階で備わっているように思う。スタートダッシュするつもりはなく、長いシーズンの中で確実に結果を残すことを目標に、スタッフも選手も落ち着いてシーズンに入ることができよう。

寄贈図書

(公財)健康・体づくり事業財団「健康づくり」No.558	会報	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」2024 10月号 No.1083	情報誌
(株)日本運動具新報社	新聞	(一社)日本防火・防災協会	「地域防災」2024.8 AUG. No.58	会報
常北三水会山岳部	会報	東京野歩路会	「山嶺」Vol.102 No.1136	会報
(株)ネイチャアエンタープライズ「岳人」2024 November No.929 2冊	情報誌	市立大町山岳博物館	「山と博物館」2024 秋号第69巻3号	会報
大阪府立体育会館	季刊誌	(公社)日本山岳会	「山」2024年(令和6年)10月号 No.953	会報
清手康史	寄贈本	おいらく山岳会	「山行手帖」No.779:24.1	会報
日本ヒマラヤ協会	会報	(公財)埼玉県スポーツ協会	「スポーツ埼玉」Sports 2024 秋号 Vol.304	会報

Enjoy Climbing

連載
①

2024夏フランスでのクライミング
— エギーユ・ベルト —

伊佐見 奈穂子

フランスシャモニには「いつかクライミングで戻ってきたい」、学生時代シャモニの隣町でインターンをしていた私は、毎日ドリュを眺めながらそんなことを思っていた。まだクライミングをしたことがなかったころだ。それから10年たって「いつ行くんだ？」ふとそう思って、仕事を辞め3か月のシャモニ行きを実行することに決めた。

当初は単独渡仏を考えていたが、この冬ウィンタークライマーズミーティングで知り合った寺田さきが6月合流できるとのこと。女子二人で気兼ねなくクライミングができるのは願ってもいない幸運だ。そして7月は夫が3週間の休みを取って合流できることになった。

6月3日シャモニに到着、滞在のベースとなるキャンプ場 Les Arolles に入った。さて6月のテーマは「基礎のアルパインクライミングをすること」。私も寺田もヨーロッパでのアルパインルートは未経験で、そもそも二人でロープ繋ぐのも初めてだったからだ。シャモニに着いてすぐに好天があったので、さっそくエギーユ・デュ・ミディに3日間上がった。初日に氷河歩行とクレバスレスキューの練習、二日目にコズミック稜、三日目にトライアングル・タキュルからタキュル山頂を登った。気持ちいい好天の中、モンブランを見ながらのいいスタートになった。

～アルパインクライマーの登竜門!?

エギーユ・ベルト登頂～

さて、足慣らしはできた。当初の計画ではグランドジョラス北壁のウォーカー稜を考えていたが、今年は5月まで降雪続きで雪が多く、真っ白い北壁を見て、この計画は再考せざるを得ないと思った。ミックスコンディションなら今の私たちはお呼びでない。ほかに、レシヨ、クーベルクル方面でルートを探していると「それならウィンパーがいいよ！」と勧められたのがエギーユ・ベルトのウィンパークーロワールだ。

6月12日、朝一のモンタンベール鉄道に乗り込み、クーベルクル小屋を目指した。200mの梯子を延々と上がり、雲の中に見え隠れするグランドジョラス北壁を時々見ながら4時間半かけて小屋に到着。夜中の出発に向けて睡眠をとった後、19時夕食。食堂には大勢の人がいた。小屋のスタッフ曰く今晚は小屋泊まりが60人ほど、そして2/3がウィンパークーロワールを目指すということだった。驚愕の事実を告げられショックを隠せなかったがよく考えればそれもそのはず。今年は雨続きでみんなチャンスを待っていたのだ。2～3日の晴れ間とあれば、シャモニのどの人気ルートも渋滞必須の状態だった。



▲クーロワール上部



◀エギーユ・デュ・ミディ
晴天の中クライミング

夕食のあと深夜出発に向けて寝室はすぐに静まり返った。そして0時、一齐に朝食。私たちは朝食を頼まなかったので暖かい飲み物と食べ物を軽く口にしてハーネス、アイゼンを付ける。午前0時半、いち早く小屋を出発していった先行パーティに続いて私たちも出発。小屋から取付きまではタレフル氷河をエギーユ・デュ・モワンの基部に沿って北に進んでいだけなのだが、真っ暗な中では氷河の状況が全く分からず、ロープをつないで慎重に歩く。3時間ほどかけて標高約3,400mの取付きに到着。私たちの後ろにも大勢のパーティが列になっている、総勢40人はいたはずだ。ここからは標高差700m上げる、前に出たい気持ちを抑えてペースをセーブして登っていった。

登攀内容としては最大傾斜55°の雪壁&アイスをはたすらコンテで登る。技術的な難しさはないが、私にとっての難しさは「ずっと続く緊張感」と後から来た「寒さ」だった。真っ暗なクーロワールの中、セルフビレイも取れず先行パーティの落水に何度も耐えなければいけないのは正直苦痛だ。上部、傾斜の緩い部分に抜けたとき、やっと一息ついた。振り返るとグランドジョラス北壁にちょうど朝日が当たっている、絶景。と同時に緊張感が緩んだからか寒さに勝てなくなった。少し進んでは手足をブンブン振り回して血流を戻そうと必死だった。(下山数日後、左足小指に軽度の凍傷を負うことになる)稜線に出て、速攻ダウンを着込み6時半過ぎ山頂に立った。

下山はさらに長かった。軽量化を優先し、60mロープ1本しか持参していなかったからだ。ラッペルとクライムダウンを繰り返して、正午に取付きに着いたころには何回目のラッペルだったか覚えていない。登りの倍近く時間がたっていた、、、あとはド晴天の中、グサグサになった踏み抜き地獄に何度も悪態をつきながら、14時に小屋に戻った。

実は後から知人に教えてもらったのだが、フランス人の中ではベルトはこんな風に言われている。“Qui n'a pas fait la Verte n'est pas un alpiniste” (ベルトに登らないと、アルピニストではない) 色々な反省が残る山行だったが、基礎を積むという意味ではまさに私たちに

ぴったりな内容だったと思う。

最後におまけ話。実は今回密かにクーベルクル小屋に泊まるのを楽しみにしていた。評判通り、小屋番はすごくフレンドリーだし、何より主人のピエが作るご飯がとにかく旨い！ シャモニを訪れる際はぜひ立ち寄って欲しい。

伊佐見 奈穂子 プロフィール

「チームやまめ、山登魂メンバー。夏は沢登り、冬は雪稜など。2019年三重県名張でクラックに出合ってから真面目にクライミングを始める。好きな山は八ヶ岳、谷川、越後の山、鈴鹿、三浦アルプスなど」



クーベルクル小屋 窓の外はグランドジョラス

長野県山岳協会自然保護委員会のSDGsな活動

私は今年から自然保護委員長になりました。これまでの活動を踏襲しつつ、会員だけでなく広く一般を対象とした様々な活動を企画、共催し、私自身も参加して楽しんでいます。そんな活動をいくつか紹介します。

長野県山岳協会が指定管理者として運営している長野県山岳総合センターと共催で、今までも何度か開催している野鳥探索会を復活させました。6月には戸隠森林植物園に13人が集まりました。協会の活動として広く山に自然に親しんでいただく企画です。野鳥の宝庫といわれる戸隠、2時間ほどで30数種類の野鳥と出会えました。実は野鳥に疎い私には美しい鳴き声が聞こえてきてもなかなか見つけられず、「あの声は〇〇」、「ほらあそこに」と教えられても双眼鏡を覗いてもキョロキョロするばかり。講師がセットした単眼鏡の中に可愛い姿を見て感動。こんな私でも存分に楽しい時間を過ごすことができました。今後、秋と冬にそれぞれ季節の野鳥の観察会を計画していきます。

長野県山岳協会には4つの支部があり、支部独自の活動を行っています。諏訪支部の八ヶ岳清掃登山は支部自然保護委員が主体となって実施し、今年で46回を数えます。今年は天狗岳周辺で実施しました。ゴミの状況はここ数年間で一番少なかったようですが、そ

れでも19名で大きなゴミ袋3つ程にもなりました。地道な活動を通して自然を大切にすることを広め、多くの登山者にきれいな八ヶ岳を楽しんでもらえることを願い、加えて山仲間との親睦を深める機会としても継承されている誇れる伝統です。茅野市観光協会の担当者の「ゴミは少なくなる傾向ですが、遭難事故は近年増えているんですよ！」との言葉に、安全登山の普及も引き続き大きな課題であることを再認識しました。

他支部でもジュニアや初級者を対象に登山教室、クライミング教室を毎年開催しています。協会員だけに限らず、これから山に親しんでいくであろう新たな仲間の輪と和を広げつつ、体験を通して正しい山の知識、技術普及並びにマナーや環境問題等意識の喚起に貢献するような活動を行っています。

2023年3月にはJMCA自然保護指導員研修会を開催し、23名が新規および更新に学びました。協会の自ら学び自然保護活動に寄与できる人材であろうとする姿勢を持続していきたいものです。改めてゴールを設定せずとも、長山協が続けている活動がSDGs的な活動そのものであり、これからも継承されていくものであろうと考えます。

(長野県山岳協会自然保護委員長 麻田正明)



戸隠森林植物園での野鳥観察会 (2024年6月)



八ヶ岳清掃登山 (2024年9月 諏訪支部長小松氏提供)

田中文男名誉会長の卒寿を祝う会 開催

田中名誉会長(以下 田中氏)の卒寿をお祝いする会が催されました。場所は明治記念館芙蓉の間に於いて、10月27日(日)です。参加者は、秩父宮ご親族の松平恒忠様始め友好山岳団体、全国の岳連、顧問参与など85名でした。同日には田中氏が会長を務める社会福祉法人「子供の町」のチャリティバザーも開催されております。発起人はJMSCA 常務理事会メンバーです。

13時に開会、発起人代表挨拶の後にご来賓の挨拶として松平様を筆頭に埼玉県有加須市長角田守吉様、(公社)日本山岳ガイド協会の武川俊二代表理事、日本ヒマラヤ協会の伊東満理事長が続きました。乾杯の発声は当協会の顧問である、城隆嗣、神崎忠男、八木原罔明の3名が行いました。歓談の後に子供の町の子供達によるダンス、田中氏が最高顧問を務め、作詞もなさった青森の十和田山岳会、扇田守様、上明戸親志様そして青森岳連の服部一雄会長による十和田山岳会讃歌の合唱が田中氏を加えて行われました。その後に世界的ヴァイオリニストの佐原敦子様が山の歌やバッハの曲を弾いて下さいました。田中氏のお礼の挨拶は趣味の紹介も含めて行って頂きました。 記 小野寺



JMSCA

令和6年度 第9回
理事会報告

○日 時：令和6年10月10日(木)
14:05—16:45

○場 所：JSOSビル3F会議室4

○出席者：蛭田会長、古賀副会長、小野寺専務理事、赤尾・野村・町田各常務理事、小高・栗田・小田部・佐藤・島田・中島・中橋・西谷・濱田・樋口・前田・望月(議案第6号から参加)以上18名
佐久間監事、古屋監事以上2名

○欠 席：吉田副会長、畑中・平田・杉本・安井理事以上5名

1. 開 会

2. 蛭田会長からの挨拶

総会后、U A A A 30周年記念事業、ボルダーフューチャーカップ等の事業を実施してきた。今後、S C、及びスキーモの事業、山岳4団体会議が予定されているが、これらの事業を一つずつ黒字化させることで、岳連からの信頼を得ていきたい。各専門部で、黒字化できるようにお願いしたい。併せて、JMSCAの今後の中長期の方向も検討していく必要があるが、よろしく願いたい。

3. 会議成立状況報告

理事数 開始時23名中17名出席(定款第33条、定足数=12名(1/2超))

監事数 2名出席

4. 議長選出

蛭田会長が議長を務める。(定款第32条)

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

6. 議題(注. 審議順に記載)

議案第1号 議事録の承認について(前回第8回の議事録について)

9月中に回覧、確認され承認済

議事第2号 財務委員会から、望月理事参加の上で協議するので、後で協議することになった。

議案第3号 基金確認について

赤尾事務局長が配布資料を基に説明し、現在975万円の申込となっている。辞任したM氏が、合意書上基金申込としているが、まだ申込書を提出していない状況である。今後の対応は、顧問弁護士に相談することとなった。

2022年度の理事の中で、基金申込を拒否している登山系の旧理事(2名)以外に、申込していない理事がいなか確認し報告する。

今回の申込全額を全額引き受けることと、次の事務手続きに進めてよいか賛否を取り異議なく承認された。

賛成17名反対ゼロ棄権ゼロ

議案第4号 SKIMO日本代表チームに関する規程について

小野寺専務理事と小田部理事が配布資料を基に説明した。

規程施行日を令和6年11月1日とする以外、S C部と同じ内容。

賛成17名反対ゼロ棄権ゼロ

議案第5号 2022年度赤字に関しての理事の責任について

蛭田会長が、宣誓文(案)を画面から表示し、それを基に協議し、以下の意見が出た。今回は、協議内容を議事録として残していきたいと述べた。

*理事全員戒告処分とする。

*発行日付は、理事会開催日とする。

*過去の事実及び責任と、今後の取り組み

を分けてまとめてはどうか。委員会の責任についても、言及した方がよいのではないか。

*事業報告は、実施後1か月の時点ではできないので、原則1か月ということでもまとめてほしい。

(監事からの意見)

1. 顧問弁護士、理事、ガバナンス委員会委員長を含め3名の弁護士の判断では、倫理、処分規程には抵触しないとのことで、あいまいになった経緯がある。

2. 倫理規程の戒告処分とするならば、倫理規程の関係条文について言及し、明記することが必要。

3. 総会では、理事の責任について、6名を確定し、他の理事については処分しなくてよいと決議、合意したのに、改めて他の理事を含めた責任について言及するのは、決議を覆すということになる。当総会で決議した議案は、弁護士に相談し提示したもので、それ以外に、何を必要があるのかという意見もある。また、必要があれば、臨時総会を開催して改めて他の理事の責任を問うことも可能であるが、現在のところそうした招集もない。

4. 理事会として自主的に文書(始末書・宣誓文等)を出したいという意図は尊重するが、処分、すなわち戒告等は総会決議とは異なるので、同意しかねるし、よく検討する必要がある。

*今回、意見を出している一部の岳連と、個別にどうしたらよいかを協議してはどうか。

*以上の意見の後、文書を発出する前に、顧問弁護士もしくは第3者の弁護士とも、総会の経緯を含め相談したう

えて、文書の内容を検討する。

上記意見を加味し、宣誓文の変更の要否を確認したうえで、1か月後の理事会(11月)で結果を発表、審議することになった。

議案第6号 役員選考規程第4条の改定案について古賀副会長が、配布資料を基に、過去の役員選考に関わる経緯と、今規程改定に至った背景について説明した。

具体的には、役員選考委員を、5-9名から7名とし、内訳も規定している。誰がよいかは、ガバナンス委員会が推薦する。今回は、第4条の3項に関わる文言が、特に焦点となった。

1. “自らが役員(理事及び監事)候補者に立候補する場合は”を“自らが役員(理事及び監事)候補対象者になった場合は”に変更する。
2. 理事/正会員とあるが、ただし理事と、加盟団体正会員は重複しないという文言を入れる。

以上の2点を変更、追記することを条件に採決を諮り、以下のように今提案が承認された。

賛成17名反対ゼロ棄権1名(濱田理事)

議案第7号 基本財産3千万円の運用について

赤尾事務局長が、配布資料を基に現行の定期預金(年間37,500円運用益)は、資金運用に使用できない前提に立ち、より利率の高い国債(年間187,800円)への切り替えを提案し、以下のような意見が出た。

*キャッシュフローの問題が解消していない状況で、キャッシュとして使用できる定期預金(解約すれば)を国債にまわしてしまうことにより、支払いに必要な資金確保が難しくなるのではないかと。流動性が、悪化する。

*定期預金3000万円を担保にして、借入の増額は可能か。

*定期預金より国債の方が安全性は高いが、現金が必要となり、国債を解約するような場合、損切りをすることもあり、却って現金減となるリスクもあるのではないかと。

*国債を途中でキャンセルすることは可能か。その場合の利率はどうなるのか。→証券会社に確認する。

*定期預金より国債の方が安定している。国債が担保となり、銀行からの借入が可能なのかを確認しておいた方がよい。

以上の意見から、現状下では、国債への変更はせず、定期預金のままにしておいた方がよいという大勢の意見について採決をとり、異議なく承認された。

賛成18名反対ゼロ棄権ゼロ

議案第8号(追加議案) 山梨県山岳連盟からの小学生スポーツクライミング普及事業の実施依頼について

望月理事が、配布資料を基に説明し、JMSCAが主催となるため、理事会承認が必要なることを補足した。採決の結果、以下のように異議なく承認された。

賛成18名反対ゼロ棄権ゼロ

議案第2号 補正予算について

望月理事が、最新の状況を画面に表示して説明した。

収入、支出とも当初予算から増えている

が、収支差(計上収益と計上費用)は1,300万円ほどマイナスとなっている。このうち、公益でマイナス400万円となっていて、その理由が減価償却費の増加であることの補足説明がされた。

今後、このマイナス分について、収入、支出の詳細項目で更に精査すべき点が散見されるので、財務委員会と事務局の担当者が詰めていき精度を高め、その結果を報告するとともに、収支改善に努めていくことが了承された。尚、半期の決算は、例年と同様実施予定(10月31日)。

その他 今後の常務理事会、理事会の時間と、理事会後のブリーフィングについて蛭田会長が今後は、常務理事会を第2火曜日とし、第2木曜日の1時から理事会とし、5時に終了としたいと提案した。

また、小野寺専務理事が、従来(4年前)のメディアへの報告方法を説明し、今後のブリーフィングの内容は、

— S C関係は、安井理事もしくは町田 S C部長

— 登山関係及び理事会報告は、会長もしくは専務理事が行うことを提案した。

尚、本日(10月10日)は、PM5:00から従来どおり蛭田会長が対応し、S C関係は、安井理事欠席のため西谷理事が参加し、説明してもらう。

また、今後の進め方についてもアナウンスする予定。

以上の内容で進めることについて異議なく承認された。

7. 報告

以下の内容を小野寺専務理事が報告した。

報告第1号 月次報告、キャッシュフローについて割愛

報告第2号 令和6年度上期総括案について(次回理事会承認予定)

今配布資料にあるので、各自読んでいただき、変更が必要であれば、10月20日までにフィードバックしてくださいと伝えた。

報告第3号 SKIMOユニフォーム等運用内規について(常務理事会マター)

常務理事会で承認された。

報告第4号 全日登山大会新潟大会について

約160名参加。登山日は雨のため途中引き返しとなったが、予定の事業は無事終了した。

報告第5号 山岳グランプリ公募について(口頭)

現在募集中だが、応募はまだない。創立50周年の設置時には、権威ある賞にしようとしたが、今後、対象等の見直しを検討する必要がある。

報告第6号 オリンピック祝勝会について(口頭)

年内の開催は時間的に難しいので、最悪新春懇談会と同日で行う方向で検討、伝達したい。選手にもその意向を確認することになった(西谷・栗田・杉本・小田部理事経由で確認をお願いしたい)。

報告第7号 山岳4団体連絡会議、懇親会について

10/17に実施予定。総勢20数名、JMSCAから6名参加予定。

山の日協議会へのかかわり方、各団体の活動状況の共有等が議題。

報告第8号 田中名誉会長卒寿記念祝賀会について

参加者は70名強(10/11時点で73名)の予定。

報告第9号 オリンピック競技大会及びパラリンピック競技大会優秀者顕彰、スポーツ功労者顕彰等に係る文部科学大臣顕彰及び表彰について

報告第10号 登山月報改善に向けてのアンケート結果について

13岳連から返事がきている。(11岳連:配布不要、2岳連:減冊の意向)

報告第11号 指導員の認定について

常務理事会で協議された通りの承認となった。(配布資料に一部間違いがあったが、修正された)

報告第12号 新たな登山届出システムのお知らせについて

報告第13号 山梨岳連体験会主催について

議案第8号で承認済。

報告第14号 積雪期レスキュー講習会要項について

報告第15号 I F S Cクライミングアジアユース選手権2024インド派遣選手承認について

常務理事会で承認(配布資料にあり)

報告第16号 富士山入山規制とその影響について(情報共有)

古屋監事が補足説明をし、富士登山のガイドラインがあり、登山条例では冬登山計画の提出義務がある。5合目から6合目までは山梨県道で封鎖、テント幕営禁止などの登山制限がある。

野村登山部長が登山部としての意見をまとめる事になった。

報告第17号 業務執行理事の職務執行報告について

業務執行理事が配布資料を基に各自読み上げた。

その他理事ナンバーの再採番とその伝達をお願いしたい(事務局へ)。

以上
令和6年10月10日 記録 赤尾浩一



かすみちゃんのハイキング日記



表紙のこぼれ



「小鳥ヶ池と戸隠連峰」

戸隠は長野市の西に位置し、戸隠連峰の山々は天岩戸のような独特な山容で古代から霊峰として崇められて来ました。戸隠と言えば神社と蕎麦が有名ですが、野鳥の楽園としても名高く、周辺には飯縄山、急峻な戸隠連峰、西岳、黒姫山、日本百名山の高妻山など上級者レベルの山があり高い人気を誇ります。

戸隠連峰が水鏡に映る鏡池は全国的にも有名な撮影スポットです。小鳥ヶ池は鏡池の南東に位置し、水面に映る戸隠連峰は絶景です。小鳥ヶ池は鏡池に比べて知名度がなく、観光客も少ないので、静かに撮影を楽しめます。

撮影者:長野県山岳協会 伊久間幸広(飯田山岳会員)

編集後記

毎年、あるトレイルランニング大会にスタッフとして参加していますが、今年は例年以上に体が重く感じ、徹夜も以前より辛くなりました。振り返ると、最近の登山でも以前に比べて疲れが増していると感じます。「年のせいかな…いや、まだまだ頑張れるはず」と思いながらも、今の自分の状態をしっかりと把握し、それに見合った登山を楽しむことが大切だと改めて感じました。JMCSAのホームページには山のグレーディング情報が掲載されていますので、登山計画の際にはぜひ活用してください。

https://www.jma-sangaku.or.jp/sangaku/safe_climb/grading/

(松本光顕)

登山月報 第668号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 (毎月1回15日発行)
 発行日 令和6年11月15日
 発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
 Japan Sport Olympic Square 807
 公益社団法人
 日本山岳・スポーツクライミング協会
 電話 03-5843-1631
 F A X 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん
山と人、時代をつなぐ「岳人」

12月号
販売中

【特集】なぜ山に登るのか

モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて販売中!

毎月15日発売 価格1,100円(税込)



▶年間購読が断然おトクです!

年間購読 通常特典 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

さらに モンベルクラブ会員さまには **5,000P** プレゼント!

モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

年間購読特典

岳人オリジナル手ぬぐい



岳人の表紙絵を描く
中村みつを氏のイラストを使用!

限定デザイン

岳人
カード

全国2,000ヵ所以上で
ご優待!



全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>

<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



日山協山岳共済会のご案内

安全登山は登山者の努め、
山岳保険は義務。

ご自身のために、ご家族のために。

日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

2022年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課
(2023年6月9日)

発生件数 **3,015**件(前年対比 380件増)
遭難者数 **3,508**人(前年対比 431人増)
死者・行方不明者 **327**人(前年対比 44人増)

